

埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第52回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和6年12月8日(日)

会場：ソニックシティ

テーマ：Challenge!

サブテーマ：～多様化するニーズへの実践と進化～



第52回埼玉県医学検査学会 会計部(運営部兼務) 徳大路 洋史

第52回埼玉県医学検査学会にて会計部(運営部兼務)を務めさせていただきます、学校法人明星学園 国際医療専門学校 徳大路洋史と申します。

今年も暑い日が続いておりますが、皆さま方におかれましても万全の状態に学会に参加できるよう、体調管理に気をつけてお過ごしください。実行委員一同も学会テーマである「Challenge!」しながら準備を進めているところです。

学会はソニックシティにて開催します。参加費は昨年同様、Peatix(ピーティックス)を利用した事前参加登録方式で、クレジットカード等でお支払いができるように準備しています。ランチョンセミナーの申し込みも同時に行えます。参加費は例年通り、埼臨技会員(日臨技会員):2,000円、賛助会員:2,000円、非会員:5,000円、学生:無料となっております。

まだいくつかの検討事項もありますので決まり次第、埼臨技だよりや学会ホームページ、公式LINE等でお知らせいたします。皆さま、学会公式LINEの登録もよろしくお願いたします。

第52回埼玉県医学検査学会 運営部 大内 輝

第52回埼玉県医学検査学会の運営部を担当させていただきます、埼玉県立がんセンターの大内輝と申します。今回、初めて実行委員を務めることになり、実行委員の役割が想像以上に多岐にわたることに驚いています。これまで実行委員を務められた方々に敬意を表しながら、学会開催に向けて日々「Challenge!」しております。

今回の学会では、教育講演としてRCPCやてんかんに関する講演を、特別講演としては医療人のキャリア形成・人間形成に関わる講演や、災害対応に関するシンポジウムを予定しています。さらに、研究班による学会企画や協賛企業によるランチョンセミナーを開催いたします。学会ホームページや公式LINEで情報を発信してまいりますので、ぜひチェックしてみてください。

学会が円滑に運営できるよう尽力してまいりますので、皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

埼臨技 新入会員向け研修会開催される

令和6年7月5日(金)新入会員向け研修会がRaiBoC Hallにて開催された。

講演1は会長松岡優氏より「臨床検査技師会とは?～埼臨技について～」と題し、技師会の紹介から公益事業について、現在の医療業界における臨床検査技師の立ち位置や、タスク・シフト/シェアについてなど、具体的な内容や写真を提示しながらの説明があり、臨床検査技師また技師会会員としての理解が深まる内容であった。

講演2は関森なつみ氏より「先輩技師に聞く～患者様とのコミュニケーション、生理機能検査、採血業務を通じて～」と題し、具体的な患者対応などについて、実際の経験談や事例を交えた解説とアドバイスがあり、コミュニケーションの大切さが再確認できた内容であった。

(文責：塚原晃)



松岡 優氏



関森 なつみ氏

参加者からの感想

埼玉県済生会 加須病院
田代 向日葵



令和6年度埼臨技主催の新入会員向け研修会に参加しました。

松岡会長の講演では、日臨技や埼臨技の活動や役割について学びました。特に生涯教育の面では、勉強会が充実していることを知り、自分のスキルアップのためにも積極的に参加していこうと思いました。

関森氏の講演では、患者様とのコミュニケーションについて学びました。事例を挙げて説明していただいたことで、具体的に自分たちがどのような対応をすべきかが理解できたとともに、臨床の場では臨機応変に動くことがとても重要だと感じました。また相手に寄り添った対応や言葉選びなど参考になることが多くあり、これから実践していきたいと思いました。

私自身入職してから3ヶ月が経ち、患者様と関わる機会が増えてきた中で、患者様が安心して検査を受けられるように、今回学んだことを活かして日々の業務に励んでいきたいと思っております。

越谷市立病院
木村 豪



令和6年度埼臨技主催の新入会員向け研修会に参加した。

講演1では、技師会の役割やその活動について理解を深めることができた。タスクシフト/シェアも加速する医療の現場において、技師会が開催する研修会等に積極的に参加し、自身の知見を広げることが重要であると改めて感じることができた。また対面形式での研修会が増えてきている中で、他施設の方々との交流も大事にし、自らの成長につなげていきたいと思った。

講演2では、患者様とのコミュニケーションについて、注意すべき点や心がける点を学ぶことができた。患者様と接する採血や生理機能検査では、ただマニュアル通りに業務を行うのではなく、患者様一人一人に目を向け、体調の変化等に気を配ることが大切だと学んだ。また検査中の言葉遣いや声かけ等、細かなところにも配慮することが、より良い検査につなげるために大切だと感じた。

今後は多くの研修会に参加して知識・技能の向上を図るとともに、今回の研修会で得たことを、日常の業務に活かしていきたい。



公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 令和6・7年度役員名簿

役 務	氏 名	施 設 名
会 長	松岡 優	埼玉医科大学病院
副会長	猪浦 一人	埼玉県済生会加須病院
副会長	山口 純也	埼玉県済生会川口総合病院
事務局長 (常務理事)	濱本 隆明	防衛医科大学校病院
事務局次長 (常務理事)	阿部 健一郎	深谷赤十字病院
事務局	西田 満喜子	さいたま市立病院
総務部長 (常務理事)	三木 隆治	獨協医科大学埼玉医療センター
総務部	佐瀬 勝也	東松山医師会病院
総務部	伊藤 隆史	医療法人明晴会西武入間病院
総務部	網野 育雄	埼玉医科大学国際医療センター
総務部	藤原 美香	学校法人明星学園国際医療専門学校
事業部長 (常務理事)	塚原 晃	医療法人社団東光会戸田中央総合病院
事業部	神嶋 敏子	地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター
事業部	長谷川 隆	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
事業部	笛木 知子	埼玉医科大学総合医療センター
会計部長 (常務理事)	神戸 考裕	関東甲信越ブロック血液センター埼玉製造所
会計部	小林 麻里子	北埼玉医師会立メディカルセンター
会計部	工藤 淳子	北里大学メディカルセンター
学術部長 (常務理事)	久保田 亮	埼玉県立大学
学術部	長岡 勇吾	さいたま赤十字病院
学術部	原 誠則	壮幸会行田総合病院
学術部	土田 順子	自治医科大学附属さいたま医療センター
精度保証部長 (常務理事)	長谷川 隆	一般社団法人浦和医師会メディカルセンター
監 事	遠藤 敏彦	
監 事	細谷 博光	細谷会計事務所

◆ 新任理事の自己紹介



北里大学メディカルセンター
工藤 淳子

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました工藤淳子と申します。これまで研究班活動や学会を通じて多くの経験や学びの機会をいただきました。これまで培ってきた人脈と経験を生かし、微力ではございますが会員の皆様と当会のさらなる発展のために、お役に立てるよう努めてまいりたいと思います。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



自治医科大学附属さいたま医療センター
土田 順子

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました、自治医科大学附属さいたま医療センターの土田順子と申します。何分経験が浅く、一から学ぶつもりでおります。会員の皆様に少しでもお役に立てますよう微力ではありますが努めてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



さいたま市立病院
西田 満喜子

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました西田満喜子と申します。会員の皆様のお力をお借りし、微力ながら努めて参りたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



壮幸会 行田総合病院
原 誠則

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました原誠則と申します。技師会には、学会、研究班活動を通じてお世話になりました。諸先輩理事の方々にご指導を賜りながら、新任理事として微力ではありますが、会員の皆様のお役に立てるよう努めて参りたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻ほど、よろしくお願いいたします。



埼玉医科大学総合医療センター
笛木 知子

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました、埼玉医科大学総合医療センターの笛木知子と申します。諸先輩方の指示を賜りながら、会員皆様のお役に立てるよう、微力ながら努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



国際医療専門学校
藤原 美香

この度、埼玉県臨床検査技師会理事を拝命いたしました国際医療専門学校の藤原美香と申します。将来会員となる臨床検査技師の卵を育てる立場から、会員の皆様またはこれから会員となる皆様にとって、技師会が身近で魅力的であると感じていただけるよう、微力ながら全力を尽くしてまいります。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

研究班研修会報告

テーマ **心エコー基本断面から計測 ～初心者向け～**

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年5月24日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎教科－20点

講師：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員161名

出席した研究班班員：南雲涼太 野村和弘 工藤淳子 新井雅人 松平悠

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は心臓超音波検査に携わって間もない初心者を対象とし、基本断面や計測項目、描出するためのコツ、計測する際の注意点の解説をおこなった。

野村氏からの講義が終了した後に質疑応答の時間を設けたが、予想以上に多くの質問が寄せられた。

研修会の最後に講師の野村氏よりいくつかメッセージがあったが、「Bモードを制するものは、エコーを制する」、「検査時間も大切ですがまずは、綺麗な画像を描出する」というメッセージが特に印象に残った。心臓超音波を習い始めたばかりの頃は時間がかかって焦ってしまうこともあるが、時間を優先して雑な画像になってしまうと臨床側に正しい情報を提供できない上、エコーの技術も上達できないので、基本を頭に入れて教科書に載っているような綺麗な画像を描出できるように日々励んでほしい。今回の研修会では、心臓超音波検査で大事なポイントが網羅されており、私自身も基本を振り返ることができたとともに、基本の大切さを改めて感じた。

(文責：松平悠)

テーマ **輸血実技研修会参加者必須講座 ～輸血検査の手技、判定方法、注意点など～**

主催 輸血検査研究班

実施日時：2024年6月7日 19時00分～21時00分

会場：ソニックシティビル 602会議室 教科・点数：専門教科－20点

講演 1：血液型検査

講師 1：廣田 渉（さいたま赤十字病院）

講演 2：不規則抗体検査

講師 2：岩崎 篤史（自治医科大学附属さいたま医療センター）

参加人数：会員34名

出席した研究班班員：宮澤翔子 岩崎篤史 廣田渉 佐々木翔太 大垣秀友 志村祥太
渡邊寧々

研修内容の概要・感想など

今回は7月28日に予定している輸血実技研修会の事前必須講座『輸血検査の手技、判定方法、注意点など』をテーマとして研修会を行った。昨今、自動輸血検査装置を導入している施設が増加傾向であるが、自動輸血検査装置での判定保留時の対応や追加検査を行う際には試験管法で実施しなくてはならない。つまり試験管法での知識や技術習得は安全な輸血医療を行う上で必要不可欠である。

廣田氏の講演はABO・Rh血液型検査の基礎から検査の基本操作および予期せぬ反応への対応についての説明であった。ABO血液型は不適合輸血を防ぐために輸血前に行われる重要な検査

であり、管理された試薬、方法および手順のもと正しい判定が行わなければならない。基本操作の第1ステップとなる赤血球浮遊液の作製法は血球濃度の異なる浮遊液の写真が提示され、色調の違いを確認することができた。第2ステップとなる試薬・検体の分注に関しては、検査用試験管の準備は結果判定の記録と同じように並べることで分注ミスや判定ミスを防ぐことができるというポイントの説明があった。各基本操作において、注意点を把握することで、人為的ミスを防ぐことができると理解できた。第3ステップとなる凝集強度の見方では、各反応強度の写真が提示されており、凝集の特徴や背景の色調に関して大変分かりやすく認識することができた。弱い凝集でも見落とさないために、試験管の傾け方やセルボタンの流し方を習得することで、誤判定を防止することができる。

岩崎氏の講演の不規則抗体検査では、不規則抗体の基礎とスクリーニングから同定検査までの検査の流れと消去法についての説明があった。複数の症例を提示し、消去法の考え方が大変よく理解できた。同定検査において、否定できない抗体が残ってしまった場合の追加検査の進め方や薬剤による影響など、実際のルーチン業務での対応方法も含めて説明があり、明日からの業務にも役立つ内容であった。

安全な輸血医療の提供は検査を行う臨床検査技師の力量に大きな影響を受けるため、検査実施者はその影響を理解しておくことが重要である。今回の講演の内容をルーチン業務に生かすことで、各個人の力量の向上に繋がると考える。7月に行う実技研修会においても、参加者がよりスキルアップできる研修会を行っていきたい。

(文責：宮澤翔子)

テーマ 遺伝子検査の基礎

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2024年6月7日 19時00分～20時30分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点

講師：石橋 佳朋（学校法人明星学園国際医療専門学校）

小内 玲子（株式会社TRIB生命情報医学研究所）

参加人数：会員57名

出席した研究班班員：小内玲子 園山政行 石橋佳朋 相良真理子 折原悠太 江原淳子
阿部秀俊

研修内容の概要・感想など

今回の研修では、遺伝子検査の基礎をテーマに石橋氏による「DNA抽出に関する基礎」、小内氏による「PCRの基礎」について講演を開催した。

「DNA抽出に関する基礎」については、DNAとは何かを基礎のDNA構造レベルから核酸抽出方法についての内容であった。核酸抽出方法は基本となるフェノール・クロロホルム法、シリカメンブレン法、磁性粒子法についての原理、利点、欠点について再確認した。また、ホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）検体からのDNA抽出についての注意点もおさらいした。DNA抽出時のトラブルについては、収量が少ない場合、精製度が低い場合、DNAが分解してしまう場合等の原因についても共有した。

「PCRの基礎」については、PCR反応についての原理、必要な試薬等のおさらいをするとともにサーマルサイクラーや電気泳動の原理について再確認した。次にリアルタイムPCR法におけるPCR産物検出法としてインターカレーション法、ハイブリダイゼーション法の原理を確認するとともに、PCRの定量方法（絶対定量法、相対定量法）についても確認した。さらにデジタルPCRについても原理や特徴についても確認した。

医療機関等で普及している測定機器は検体前処理抽出からPCR反応までの全自動の機器も多数存在しているが、根底となる測定原理を理解していないと万が一のトラブルシューティング

の際や検査結果が正しいか判断することが困難となる。またPCR法と一概に言うが様々な測定原理がありそれぞれの特徴を理解したうえで検査項目にあった測定原理を選択する必要があることも改めて共有する場となった。

(文責：阿部秀俊)

テーマ 検査技師の底力！ 尿路感染症見つけます。

主催 一般検査研究班

実施日時：2024年6月13日 19時00分～20時00分
会 場：Web開催 教科・点数：専門教科ー20点
講 師：藤村 和夫（埼玉県済生会川口総合病院）
渡辺 駿介（深谷赤十字病院）

参加人数：会員161名

出席した研究班班員：

一般研究班：藤村和夫 柿沼智史 中川禎己 松本実華 織田喜子 小針奈穂美 福島明音
林達也 渡邊裕樹
微生物研究班：小棚雅寛 酒井利育 今井芙美 岸井こずゑ 渡辺駿介 佐々木真一
伊波嵩之 山本早紀 大塚聖也

研修内容の概要・感想など

一般検査研究班と微生物検査研究班の合同研修会「検査技師の底力！ 尿路感染症を見つけてます」をWebにて開催した。

はじめに一般検査研究班の藤村氏より「一般検査から考える尿路感染症」について解説があった。

尿路感染症とは、腎臓、尿管、膀胱、尿道、性器に生じた感染症のことである。代表的な疾患名として、腎盂腎炎、膀胱炎、尿道炎、前立腺炎が挙げられ、これらの疾患を見つけるためには、尿沈渣検査が有用である。

尿路感染症では、尿沈渣検査において細菌や白血球の検出がまず重要である。このことを説明させるために、3症例の尿沈渣写真をご提示いただいた。1症例目は細菌を認めるが、白血球を認めない「無症候性細菌尿」、2症例目は細菌と白血球を認めた「尿路感染症」、3症例目は細菌、白血球、扁平上皮細胞、糞便成分を認めた「コンタミネーション」である。これらの症例の中で尿路感染症を発症している症例を当てるクイズ形式で説明されており、大変分かりやすかった。

尿沈渣検査中の白血球は、S染色でほとんど染まらない、もしくは核や細胞質が淡く染色される生細胞と、明瞭な染色性を示す死細胞に分類され、両者の鑑別が必須である。藤村氏の施設では、死細胞を認めた場合もコメントにて報告していた。

白血球円柱は、腎盂腎炎を発症している患者に認められることがあるため、検出は重要だ。時に、上皮円柱と誤認することがあるため、鑑別が重要となってくる。両者の鑑別は、S染色での染色性の違いや、Prescott-Brodie染色で行う。Prescott-Brodie染色では、ペルオキシダーゼ酵素をもつ白血球は黒褐色に染色されるため鑑別は容易である。

また、尿沈渣検査で細菌を検出することも可能であるが、採尿方法によって外陰部や膣由来の細菌の混入があるため、患者には適した採尿方法で採尿するよう指導することも求められる。球菌と桿菌の鑑別は可能であるが、グラム陽性・陰性の鑑別は難しい。しかし、尿中有形成成分分析装置UF-5000であれば、BACT-Informationとしてグラム染色の陽性・陰性の鑑別が研究項目として可能となっている。

尿沈渣検査にて細菌の有無、白血球の有無と生細胞と死細胞の鑑別、白血球円柱の検出などを行うことで、前立腺炎、尿道炎、膀胱炎、腎盂腎炎の鑑別にアプローチができ、また、複雑

尿路感染症の基礎疾患の推定も可能であることが一般検査の強みであるとのことだ。

続いて微生物検査研究班の渡辺氏より「微生物検査から考える尿路感染症」について解説があった。

尿路感染症は、上部尿路（腎臓や尿管）と下部尿路（膀胱や尿道）に分けられ、それぞれ異なる臨床症状を示す。膀胱炎は主に細菌感染によって引き起こされ、特に性交や尿道カテーテル挿入などがリスク要因となる。症状としては排尿痛や頻尿、尿混濁があり、重症例では血尿も見られる。膀胱からの上行感染によって発症する腎盂腎炎は、腰背部痛や発熱などの全身症状を伴う。

尿路感染症の分類には、単純性、再発性、複雑性の3つがあり、単純性は基礎疾患のない成人女性に多く、再発性は不適切な抗菌薬投与によるものがほとんどである。複雑性は尿路に基礎疾患を持つ患者に多く、複数菌感染が一般的である。単純性膀胱炎は尿一般検査のみで診断されるが、複雑性尿路感染症や再発性尿路感染症では、治療方針を決定するために薬剤感受性検査が不可欠である。

微生物検査では、検査材料や目的菌によって適切な前処理や培養条件の変更が必要であり、検体採取から保存、輸送、検査、結果報告までのプロセスが重要である。

若年性女性の単純性急性膀胱炎の起炎菌となる *Staphylococcus saprophyticus* や羊血液寒天培地では α 溶血を示す *Aerococcus urinae* などは尿路感染症では同定が重要である。

通常の培養検査では検出の難しいとされる尿路結核や *Actinotignum schaalii* のような特定の微生物についても解説があった。トリコモナス原虫は、鞭毛などの運動性が観察しやすい尿沈渣検査での検出が有用であるとのことであった。

(文責：渡邊裕樹)

テーマ 第1回エコーハンズオン 心エコー基本断面から計測 ～ 初心者向け ～

主催 生理検査研究班

実施日時：2024年6月15日 13時00分～16時30分

会場：BearMedi事務所 教科・点数：専門教科-20点

講師：野村 和弘（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員9名

出席した研究班班員：野村和弘 南雲涼太 島内一輝

研修内容の概要・感想など

埼玉県臨床検査技師会生理検査研究班研修会としては約5年ぶりに超音波検査の実技講習会を企画した。超音波検査装置は1台、参加者は6名、スタッフ3名で開催した。一般に超音波検査のハンズオンセミナーは超音波検査装置1台につき3～5名であるが、予算の関係や1人でも多くの参加者に受けてもらいたいという意図で参加者6名という形をとった。

初心者を対象とし、心臓超音波検査における基本断面、基本的な計測項目の測定方法を中心に講義をしたのち実技講習をおこなった。傍胸骨左室長軸像・短軸像、心尖部四腔像・三腔像・二腔像、下大静脈についてアプローチ方法、正しい断面を描出するコツを野村氏が装置を使用し説明したのち、実際に参加者が描出をおこなう形で講習を進行した。

プローブを握り、出ている画像についてその場でアドバイスを受け修正していくことができるのは実技講習の大きな利点と考える。実際に左室長軸像が斜めに描出されている場合の対処法や心尖部二腔像の乳頭筋の映り方など、細かい点についての指摘を受け、参加者はより適切な画像が描出できるようになっていた。

民間がおこなっているハンズオンセミナーの相場は2万円以上となることが多いことから、埼臨技で低価格で開催できたことは会員への大きな利点であるといえる。参加登録開始初日で満員となったことは高い需要の表れであると考えられる。開催にあたり理事の皆様の理解や講師、

スタッフの協力なしでは開催できなかった。この場を借りて感謝申し上げる。昨今、中途の臨床検査技師の募集要項に超音波検査スキルの条件の記載を多く目にする。生理検査研究班としても超音波検査スキルの持った技師の養成は急務であると考えている。より多くの会員に、より実践的な技術を習得してもらえるよう今後も超音波検査のハンズオンセミナーを多く開催したい。

(文責：南雲涼太)

テーマ 梅毒の現状と検査・診断・治療について

主催 血清検査研究班

実施日時：2024年6月21日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 905会議室 教科・点数：基礎教科ー20点

講 師：森本 隆司(株式会社 シノテスト)

参加人数：会員17名 賛助会員4名

出席した研究班班員：渡邊剛 山本晃司 岡倉勇太 飯山恵 深田愛 森圭介 吉田萌香

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、梅毒の現状をはじめ血液検査や診断、治療、現在の法律とガイドラインについての講演内容であった。

梅毒の原因菌はトレポネーマ・パリダム(TP)であり、直径0.1～0.2 μ m、長さ6～20 μ mの螺旋状の菌である。高温、低温、乾燥に弱く簡単に死滅するため試験管内での培養は不可能であり、生きたウサギの睾丸内で培養する。かつて、梅毒はカリブの一地方の風土病であったが、コロンブスが新大陸を発見した際にスペインへ持ち帰り全世界に広がっていった。各国における梅毒の呼称は近隣諸国の名前を冠しており、恐ろしくて恥ずかしい病気をもたらした相手国への恨みと侮蔑を込めているのと同時に梅毒の伝播経路を示している。

梅毒患者はここ10年で増加傾向にあり、2023年は過去20年で最多の14000人を突破した。男女別の推移では、両者共に増加しているが、女性の感染者は2014年から約14倍に増加している。若い女性の梅毒患者が増えることで先天梅毒の患者が増加することが問題となっている。

梅毒の経過は感染してから第1期から第4期にわたり、症状の出退を繰り返しながら徐々に全身を侵していく。主な症状として扁平コンジローマや発疹、脊髄ろうなどがあるが、近年、眼梅毒の患者が増加してきている。眼梅毒は特徴的な臨床所見が乏しいため治療の開始が遅れてしまうことが多く、血清検査を用い、早期の診断と治療介入が重要である。

梅毒の検査にはTP抗体を検出するTP抗原法と脂質に対する自己抗体を検出する脂質抗原法がある。TP抗原法は確定診断であり梅毒感染の証拠となりうるが、治癒後も抗体が持続する場合があり、診断には既往も考慮する必要がある。脂質抗原法は梅毒の治癒に伴い抗体価が低下するため治療効果の判定に有用であるが、自己免疫疾患や高齢者などで生物学的偽陽性が起こる可能性がある。両検査法とも短所があるため結果の解釈には両法同時に測定し、感染の有無を判断する必要がある。

2018年には梅毒診断ガイドが発刊され、それを踏襲して最新版の性感染症診断・治療ガイドライン2020が公開された。最新版のガイドラインではTP抗体とRPRの両方を自動化法で測定することを推奨している。

今回の研修会では梅毒の検査や診断、ガイドラインについてと幅広い解説があった。また梅毒患者や先天梅毒の増加などの現状をしっかりと学び直す良い機会であった。

(文責：吉田萌香)

テーマ **臨床化学初心者必見!! 遭遇する前に備えましょう**
～ 機器トラブル、データ変動 ～

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2024年6月28日 19時00分～20時30分

会場：ソニックシティビル 906会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講師：廣瀬 良磨（浦和医師会メディカルセンター）

杉村 楓（越谷市立病院）

参加人数：会員42名 賛助会員2名

出席した研究班班員：北川裕太郎 廣瀬良磨 杉村楓 永井謙一 田中満里奈 河野邊和弘
関根梢恵 福島渉

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、前回と同様に「臨床化学初心者必見!!」というテーマで、臨床化学分野の新人向けに2つの講演を行った。2つの講演とも新しく副班長になった廣瀬氏、杉村氏が行った。

廣瀬氏の「困ったなあ～こんなときのトラブル解決方法」では、生化学検査での基礎的な分析法の解説からトラブルに遭遇した際の原因究明のポイントについて実際の事例を紹介しながらの講義であった。異常値には採血手技などの測定前処理、輸液の混入などの検体由来、分析装置や試薬などの分析上の問題に分かれ、それらを考慮したうえで臨床側に結果を返すことが求められる。異常値が発生した際の原因究明ポイントとして①発生状況を把握する②発生前後を比較する③共通点を見つけるの3点を挙げていた。特に異常を見つけたら録画や写真を撮影し記録をすることが重要であると説明があった。分析上の異常が出た際に正常の反応過程やISEキャリブレーションデータを覚えて違いが分かるようにしておくことや勉強会などに参加し事例を覚えておくことが役立つとのことであった。分析法や異常値が発生した際の原因究明など改めて学ぶことができ、ISEキャリブレーションについては新たに知ることもあり初心者はもちろん私も勉強になった講義であった。

杉村氏の「初心者向け 治療によるデータの変動」では、治療や処置によりデータが変動した症例を実際の生化学検査値を添付しての解説であった。内容として、①急変動した蛋白の考え方②急に上がったアミラーゼ③透析療法・血漿交換療法による変動④輸液混入のデータはどう見えるかという4つであった。蛋白の変動の原因はさまざまであるが、急な変動では採血体位、手術や透析後、輸液や薬剤投与などが予測されるため患者の状態や採血状況を把握しておくことが大切である。急に上昇するアミラーゼは、ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）や切迫流産による薬剤の影響の事例であった。輸液については、輸液の目的や種類、組成から始まり、輸液の混入を見逃さないために極端な値に注意すること変動の小さい項目を参考にすることが重要であるとの説明があった。これまであまり関わることの少なかった輸液のことを理解することができた。輸液混入により基本的には全体的な低値化が起こる。輸液の種類によって組成が異なるため、様々な輸液の種類を知り細かなデータを理解することが大切であると感じた。

（文責：福島渉）

**令和6年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第5回 理事会議事録**

日 時：令和6年7月11日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事)松岡 猪浦 濱本 阿部 西田

三木 佐瀬 網野 伊藤 藤原

塚原 神嶋 笛木 長谷川

神戸 小林 工藤 久保田 原

土田

(監事)遠藤

Zoomにて出席

(理事)長岡

(監事)細谷

欠 席：(監事)山口

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ. 行動報告

(令和6年6月6日～令和6年7月10日)

6月6日(木)令和6年度第3回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、遠藤、細谷

6月14日(金)令和6年度定時会員総会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、
長澤、松寄、阿部、松尾、網野、
佐瀬、三木、塚原、神嶋、
伊藤(恵)、伊藤(隆)、長岡、
久保田、長谷川、神戸、石井、
小林、西田、藤原、笛木、工藤、
原、土田、遠藤、細谷

6月14日(金)令和6年度第4回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
西田、三木、佐瀬、伊藤、網野、
藤原、塚原、神嶋、長谷川、笛木、
神戸、小林、工藤、久保田、長岡、
原、土田、長谷川、遠藤、細谷

6月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉

025)：猪浦、濱本、松寄、阿部、
塚原、伊藤(恵)、佐瀬、網野

6月18日(火)青年部会議：塚原、神戸、濱本

6月20日(木)第52回埼玉医学検査学会実行委員

会：三木、佐瀬、伊藤

6月22日(土)令和6年度日本臨床衛生検査技師

会定期会員総会：猪浦

6月23日(日)一都八県会長会議：松岡、猪浦

6月25日(火)国際医療専門学校訪問：

松岡、猪浦

6月25日(火)埼玉県医師会訪問：

松岡、猪浦、濱本

6月27日(木)第19回深谷市福祉健康まつり実行

委員会：塚原

6月27日(木)研究班会計実務担当者会議：

小林、神戸

7月5日(金)新人会員向け研修会：

松岡、塚原、伊藤、長谷川

7月8日(月)令和6年度理事研究班合同会議：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
三木、久保田、長岡、原、土田、
塚原、長谷川、神戸、三木、網野、
工藤、小林

7月8日(月)令和6年度第1回研究班運営会議：

松岡、猪浦、山口、濱本、阿部、
三木、久保田、長岡、原、土田、
塚原、長谷川、神戸、網野、工藤、
小林

Ⅱ. 報告事項

1 事務局

1) 6月25日(火)国際医療専門学校に松岡会長、
猪浦副会長が訪問した。(別紙資料1)

2) 6月25日(火)埼玉県医師会金井忠男会長に
松岡会長、猪浦副会長、濱本事務局長、神
山前会長が訪問した。

3) 6月28日(金)公益インフォメーションに、
役員の変更と令和5年度事業報告を提出し
た。

- 4) JIMTEF災害医療研修の受講者として西田理事、土田理事、小林理事、笛木理事を推薦した。
- 5) 11月29日(金)埼玉県による法人立入り検査予定。
- 6) 「第5回日本睡眠検査学会学術集会」における後援を承諾した。

2 総務部

- 1) 7月16日(火)だより第542号発行予定。
- 2) 6月16日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 025)が開催された。(別紙資料2)
- 3) 7月21日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県 026)を開催予定。
(責任者) 佐瀬、山口、神戸、三木、伊藤(隆)、松崎、小林、猪浦
- 4) 7月21日(日)8月に埼玉県立大学でタスクシフトの授業があり使用希望の機材を発送予定。
- 5) 埼臨技だより あとがき担当について報告があった。(別紙資料3)

3 事業部

- 1) 令和6年度 第1回青年部会議を開催した。(別紙資料4)
- 2) 第19回深谷市福祉健康まつり第1回実行委員会に参加した。(別紙資料5)

4 学術部

- 1) 学術部関連公文書(講師依頼状等)の発送について、郵送希望者以外はPDFで対応することとした。
- 2) 埼臨技会誌Vol.71 No.1 7月15日に発行予定。
- 3) 生涯教育委員長に原理事が互選により選任された。
- 4) 6月30日(日)「8月・9月生涯教育研修プログラム」の日臨技システム行事登録作業を完了した。
- 5) 生理研究班より班長の所属変更と班員の生涯教育履修の変更について報告があった。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

- 1) 令和6年度正会員費104名520,000円、入会金73名73,000円、再入会金3名3,000円、合計596,000円の入金があった。
- 2) 石井印刷へ、埼臨技だより第541号Web版8ページ 41,800円を支払った。
- 3) 研究班会計実務担当者会議を開催した。(別紙資料6)

- 4) Square利用状況(4月~6月)の報告があった。(別紙資料7)

Zoom開催では、事前登録の周知を学術部より各研究班へ再通知するとした。

7 精度管理委員会

- 1) 令和6・7年度、埼玉県医師会精度管理委員について報告があった。(別紙資料8)

8 一都八県会長会議

- 1) 一都八県会長会議 松岡会長が一都八県会長会議の副議長に就任した。(別紙資料9)

9 日臨技関甲信支部

- 1) 令和7年2月1日(土)山梨県石和温泉にて人材育成研修会が開催される。令和8年度は埼玉県が担当となる。

10 日臨技

- 1) 2029年全国学会は栃木県が担当予定で、開催地は千葉県、東京都、神奈川県等の大規模施設での開催予定で日臨技との調整を行っている。

11 第52回埼玉県医学検査学会

- 1) 6月20日(木)第9回実行委員会が開催された。(別紙資料10)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和6年度分)

令和6年7月1日現在
会員数 3,655名(内新入会215名)
賛助会員 68社(昨年度71社)
承認された。

- 2) 令和6年理事会開催予定案について

(別紙資料11)

上記の件について濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 令和6・7年度 委員会委員の承認について

(別紙資料12)

上記の件について、松岡優会長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 4) JAMTIS学術権限と事務権限について

学術権限使用者

久保田亮、長岡勇吾、原誠則、神戸考裕、小林麻里子、塚原晃、長谷川隆

事務権限使用者

濱本隆明、三木隆治、佐瀬勝也、久保田亮

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、上記10名のJAMTIS使用権限について承認された。

2 総務部

- 1) タスクシフトシェア指定講習会運営委員会の委員案について (別紙資料13)
- 2) 70周年記念誌編集委員について (別紙資料14)

上記の件について、三木隆治総務部長より発言があり、審議の結果、承認された。

3 事業部

- 1) 深谷健康まつり派遣スタッフの公募について
北部地区のさらなる技師会活動の活性化を目的に、ホームページ・だよりにて一般公募を行いたい。
上記の件について、塚原晃事業部長の発言があり、審議の結果、了承された。

4 学術部

- 1) 生理研究班事業計画変更について (別紙資料15)
年5回の事業計画を立てている超音波ハンズオンセミナーのうち、2回分の予算を使用し、規模を大きくした医師による専門的なハンズオンセミナーの開催を行いたい。
また、GEヘルスケア・ジャパンに協賛(超音波機器貸与)と機器操作説明を依頼したい。
上記の件について、久保田亮学術部長の発言があり、審議の結果、了承された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

7 精度管理委員会

特になし

8 第52回埼玉県医学検査学会

特になし

IV. 議題**1 事務局**

- 1) 事務局運営規則の改定について (別紙資料16)
スムーズな運用にするため手順の変更を行いたい。
上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、可決された。

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

あ と が き

今年は春まで続いたエルニーニョ現象の影響を受けて関東では梅雨入りが遅かったが、梅雨明けは例年通りで短い梅雨の期間となった。今年の梅雨のイメージとして地域差はあるのかも知れないが、まとまった雨の日が少なかったり暑い日が続いたり、あまり梅雨という印象が少なかったように思う。ジメジメとした梅雨の時期は本来好きではないのだが、もう少し雨が降ってくれないと水不足が心配になる。

梅雨明け後は猛暑、残暑の予想。暑さに負けないようにするには「昇熱順化」が効果的なようだ。昇熱順化とは運動や入浴などで発汗し、暑さに体を慣れさせることで体温の調節ができるようになり、夏バテせずに過ごせるようになるらしい。昇熱順化を取り入れて体調管理に気を配りながら仕事や勉強、趣味活動などに励みたいと思う。

(工藤 記)

